

宮腰沖縄担当大臣コメント
(平成31年度沖縄振興予算案閣議決定)

平成30年12月21日

平成31年度沖縄振興予算案については、厳しい財政状況の中ではありますが、沖縄振興を国家戦略として総合的・積極的に推進するための所要額を確保できました。

県民の悲願である那覇空港の滑走路増設については、事業最終年度として、来年度末の供用開始を目指します。クルーズ船対応の港湾や沖縄西海岸道路の整備など、沖縄の成長を支えるインフラ整備をしっかりと進めます。

沖縄科学技術大学院大学（OIST）については、イノベーション・エコシステムの形成を目指し、着実な整備・拡充を進めます。

西普天間住宅地区跡地については、今後の跡地利用のモデルケースとなるよう、沖縄健康医療拠点の整備に係る経費について、59億円を計上しました。県民の皆様には基地跡地の利活用を目に見える形で実感していただくために、今後本格化する当事業を着実に進めてまいります。

また、北部振興、離島活性化、子供の貧困緊急対策、製糖業体制強化、琉球泡盛の海外輸出など、重点的に取り組むべき分野の予算を増額して計上しました。

さらに、大規模災害時に想定される観光避難民への市町村等の対応を支援するための予算、及び特に沖縄の自立的発展に資する事業であって機動性をもって迅速・柔軟に対応すべきものを推進する市町村等向け予算として、それぞれ新規に計上しています。

沖縄独自の一括交付金のより一層的確かつ効果的な活用の推進を含め、これら予算を有効に活用することによって、県民の方々が暮らしの向上や豊かさを実感できるよう、さらには沖縄が日本経済再生の牽引役となるよう、引き続き沖縄の振興に全力で取り組んでまいります。